

平成31年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	株式会社わらび座	
施 設 名	あきた芸術村・わらび劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内定額(総額)	27,653	(千円)
公 演 事 業	27,653	(千円)
人 材 養 成 事 業	0	(千円)
普 及 啓 発 事 業	0	(千円)

# 1. 事業概要

## (1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	あきた元気事業 新春顔見世公演	4月13日～1月3日	<第一部> 「新春顔見世」 <第二部> 「いつだって青空」 出演／劇団わらび座 鈴木裕樹ほか	目標値	900
		わらび劇場		実績値	720
2	青少年東北民俗芸能の祭典 2019	5月2日～3月22日	メイン事業 出演／「富根報徳番楽」「鶏舞」「三本柳さんさ踊り」「寺崎のはねこ踊り」「安久津八幡神社延年の舞」ほか	目標値	1000
		わらび劇場ほか		実績値	769
3	ミュージカル「ジパング青春記」アトリエ公演	5月28日	出演／小山雄太（劇団わらび座）ほか 作・作詞・演出／横内謙介	目標値	120
		西木総合健康増進セン		実績値	107
4	第七回こまち演劇祭	5月3日～2月29日	「セロ弾きのゴーシュ」出演／奥泉まきは、菅愛美、瀬川舞巴（劇団わらび座）	目標値	200
		あきた芸術村ほか		実績値	892
5	わらび劇場寄席	1月12日	出演／柳家小平太	目標値	120
		あきた芸術村小劇場		実績値	122
6	アトリエチャレンジ・地域の宝物シリーズ	10月9日～3月1日	「東海林太郎伝説」脚本・演出／栗城宏 出演者／平野進一、鈴木裕樹、遠藤浩子、神谷あすみ（劇団わらび座）	目標値	240
		あきた芸術村小劇場		実績値	2426
7	わらび座小劇場公演	10月5日～3月4日	「あきたいぬになりたくて」演出／栗城宏、出演者／鈴木潤子、小林弥央、遠田雅（劇団わらび座）	目標値	3200
		あきた芸術村小劇場		実績値	3082
8	わらび劇場 アトラクション事業	4月4日～3月20日	出演／劇団わらび座 岡村雄三、丸山有子、齊藤和美ほか	目標値	2800
		あきた芸術村ほか		実績値	3630
9	わらび劇場 国際交流プログラム	10月25日、11月3日	鑑賞型プログラム 出演／劇団わらび座 三重野葵、佐々木亜美、白井晴菜、保坂未来ほか	目標値	100
		あきた芸術村		実績値	226
10	地域間交流 ミュージカル創造事業	8月22日	茶の夢 演出／栗城宏 音楽／飯島優 出演／劇団わらび座 鈴木裕樹、平野進一、遠藤浩子、神谷あすみ、森下彰夫	目標値	120
		ドンパル		実績値	115
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	





## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>秋田県は人口減少率全国ワースト1と大きな問題を抱えており、劇場のある仙北市もまもなく人口26000を切る過疎地域です。さらに少子高齢化も進んでおり、若者の市外、県外への流出も多いのが現状です。それだけに世代間交流、地域間交流、国際交流（インバウンドも含む）は地域全体で取り組むべき課題です。したがって課題の解決に向けて、「文化の力で秋田を元気にする」というテーマで年間を通じて事業を行いました。具体的には秋田のリージョナルシアターとして、専属劇団わらび座による、地域の歴史文化に根ざした題材のオリジナル舞台芸術の制作上演を軸に、地域の舞台芸術文化を活性化させるフェスティバル事業のほか、国際文化交流を図る事業、アウトリーチも兼ねた出張公演など多様な事業を展開しました。しかしながら年度末の新型コロナウイルス感染拡大により、一部事業の中止を余儀なくされました。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 質の高い舞台芸術作品の鑑賞、参加機会の増加による高齢者の生きがいづくりの促進<ul style="list-style-type: none"><li>⇒ 専属劇団わらび座を中心にプロのアーティストによる鑑賞型公演を実施。事業1、2、3、6、7、10が対象。過疎地域においても質の高い舞台芸術鑑賞の機会をつくることができた。</li></ul></li><li>・ 地域文化を題材にした舞台芸術作品の上演による青少年のふるさと教育の推進<ul style="list-style-type: none"><li>⇒ 事業7で秋田犬を題材にしたオリジナルミュージカルを上演。郷土愛を育むことで将来的な人口の社会減への対策としても期待された。集客も好調で、3月に追加公演を組んだが、やむをえず新型コロナウイルスの影響で18公演を中止した。</li></ul></li><li>・ フェスティバル、アウトリーチ、出前公演、国際交流事業の開催による交流人口の拡大<ul style="list-style-type: none"><li>⇒ 事業4、事業8、事業9を実施して地域の交流人口拡大に貢献できた。地域の主要産業である観光や、インバウンドにつながる国際交流による交流人口の拡大は、宿泊、飲食、物販等の面で間接的な部分で経済効果にも繋がった。</li></ul></li></ul>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

事業全体の入場者、参加者数は目標 8,800 名に対して、実績 12,089 名と大幅達成できた。あわせて入場者率・参加者率、収益率も目標をクリアできた。

・全体のうち 70 代以上の高齢者 2,000 名の鑑賞、参加を実現する

⇒アンケート回収の割合から全体の 20%が年齢 70 代以上。対象事業においては約 2,400 名の鑑賞、参加の見込み。

・全体のうち仙北市内の全中学生、全小学校高学年生 1,300 名の鑑賞、参加を実現する

⇒事業 7「冬の小劇場公演」において、市内の中学生 110 名が鑑賞。そして対象外の主催事業で市内の小中学生 476 名が鑑賞。そのほかは新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、鑑賞実現せず。

・全体のうち外国人 100 名、県外客 1,000 名を含む 4,000 名を仙北市外から獲得する

⇒アンケート回収の割合から全体の 80%が市外。対象事業においては約 9,600 名（うち外国人は 226 名）

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間としては、観光面で交流人口の見込める春（桜・新緑・ゴールデンウィーク）、夏（夏休み、夏祭り）、秋（紅葉）の観光トップシーズンと、農業従事者の最も動きやすい農閑期となる冬期間と事業の対象に応じて通年で計画。ほぼ当初の予定通りの実績となった。交流人口を含めると言っても、仙北市人口の約6割にあたる集客目標を設定しており、事業ごとにバラツキはあったが、トータルでは入場者・参加者の目標は達成できたので適切だったと考えます。

事業経費については、より効率的な集客を目指して宣伝費、印刷費等を中心に削減し、計画（8274万円）から実績（5720万円）まで大幅に改善。一方で収入は入場者数・参加者数の増加によって、外部収入となる入場料が当初計画（901万円）から実績（1511万円）まで大幅に改善。収益性の高める要因となった。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

あきた芸術村・わらび劇場は、劇団わらび座を専属団体として有しており、プロの俳優、創作スタッフ、舞台スタッフの常駐している点が大きなメリットです。わらび座には民族歌舞団としての歴史があり、日本各地の民族芸能の素養をベースに俳優を育成しているため、日本独自の歌、踊り、演奏を取り入れたオリジナルミュージカルの制作上演や各種ワークショップ、アウトリーチへの対応も可能にしています。さらに劇場を中心にホテル、料飲施設、観光施設からなる「あきた芸術村」をホームベースとしているため、教育旅行の誘致をはじめ、環境面でも地域との連携を行う上での優位性があります。

わらび座は1951年創立。約35名の専属俳優、そのほか約80名の創作、舞台、制作、広報、営業、マネジメントスタッフを抱えるプロ劇団です。当劇場での上演、全国ツアー公演をあわせて年間上演回数は1,000回にのぼります。当劇場の芸術監督で劇団の作品創造の柱でもある栗城宏は、2014年の第29回国民文化祭あきたの開会式、閉会式で演出を務め、それらの質の高い仕事が認められて、2015年2月には「秋田県芸術選奨」を受賞しています。本事業においても1、2、4、6、7、10の事業で演出（一部脚本も含む）を担当、質の高い公演へ評価をいただくと共に、マスメディアへの露出の面でも貢献しています。そのほか劇団わらび座以外にも、事業3の脚本演出には劇団扉座の横内謙介氏、事業10の脚本には劇団棧敷童子の東憲司氏などを起用し、作品のクオリティを高めることに尽力しました。

東北のリージョナルシアターである当劇場としては、東北ゆかりの歴史・文化に基づいたオリジナルミュージカルの創作を通して、地域に貢献していくことが求められています。本事業でも東日本大震災の心の復興を目指した（事業3）や、秋田犬を題材に秋田の若者を描いた（事業7）、そして東北を代表する童話作家の宮沢賢治の名作（事業4）などを題材に、各地の民族芸能の要素を取り入れながらオリジナルミュージカルを制作し、好評を博しました。また民族芸能そのものも舞台芸術としてアレンジして事業1、2、8、9のなかで上演。演劇人口の集中する都市部とは違う過疎地において、観光客を新規獲得することにより、観客層の拡大にも貢献できました。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

地域の文化芸術の発展に貢献する視点では、包括連携協定を結んでいる地元自治体の仙北市と月1回はヒアリング（主に市長）を行っている。仙北市は「小さな国際文化都市」をまちの将来像としており、かつては共に文化庁「文化芸術創造都市モデル事業」も実施した実績（2012年3月文化庁長官表彰受賞）がある。人口減少、少子高齢化という課題に対して、高齢者の生きがいづくり、青少年のふるさと教育、インバウンドも含めた交流人口の拡大に繋がるという前提で、事業計画を立案し、市からも内容に応じて協力、助言をいただきながら開催している。8月には市内の子どもたちを対象とした演劇体験事業も開催、そして事業2では共催して市広報等で市民へ参加を促す告知協力を行った。

当劇場の外部審議を行う「あきた元気事業委員会」の委員からも劇場の運営、事業の開催に関して、個別に助言、協力をいただいている。

市民の声については、劇場来場者向けアンケートを行っており、事業に関する要望や改善案など個別のコメントとして回収、事業に反映させています。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

・地域に、社会に貢献する劇場として事業を実践しております。その主体となる専属劇団のわらび座については、継続的な人材の育成、多岐にわたる事業に対応する人事配置を実現する為に、俳優、制作スタッフ、舞台スタッフの正規雇用に力を入れております。対象となる劇団所属メンバー78名のうち、正規雇用は74名（俳優35名、舞台スタッフ28名、制作スタッフ11名）と正規雇用率は95%にのびります。人口減少の顕著な過疎地域に位置する当劇場においては、人材確保は重要な課題で、通年での業務の機会確保は雇用の面において大きな意味を持っています。そして将来的な人材育成のために2年間のカリキュラムからなる「わらび座養成所」を設置し、専属俳優としての正規雇用のルートを確保しています。

・安定的な収益基盤の確保、そして地域貢献を目的に企業、団体、個人からの協賛金を募っています。2019年度は8,558,000円の収入となりました。前年度8,238,000円からの増額となります。協賛金は「子ども舞台芸術サポートプログラム」（劇場への学校の子どもたちへの観劇サポート費用）、劇場のガイドブック作成費用、あきた芸術村でのイベント開催費用などにあてられています。特に秋田の子どもたちのふるさと教育に貢献していく視点が高い評価を受けており、今後の作品制作の上でも参考にしています。

・毎年、秋田大学との連携事業として教員免許更新の講習会を開催しています。また過去には栗城宏が非常勤講師として採用された実績もあります。